

令和7年9月3日(水)
第14回静岡県高齢者福祉研究大会

介護福祉士養成校における 介護実践研究の傾向

—報告書のテキストマイニング分析を通して—

静岡県立大学短期大学部
社会福祉学科 介護福祉専攻
講師 安 瓊伊・准教授 奥田都子

1

求められる介護福祉士像(案)

第1回社会保障審議会福祉部会
福祉人材確保専門委員会
平成29年9月26日 参考資料2

< 平成19年度カリキュラム改正時 >

1. 尊厳を支えるケアの実践
2. 現場で必要とされる実践的能力
3. 自立支援を重視し、これからの介護ニーズ、政策にも対応できる
4. 施設・地域(在宅)を通じた汎用性ある能力
5. 心理的・社会的支援の重視
6. 予防からリハビリテーション、看取りまで、利用者の状態の変化に対応できる
7. 多職種協働によるチームケア
8. 一人でも基本的な対応ができる
9. 「個別ケア」の実践
10. 利用者・家族、チームに対するコミュニケーション能力や的確な記録・記述力
11. 関連領域の基本的な理解
12. 高い倫理性の保持

社会状況や
人々の意識の
移り変わり、
制度改革等

< 今回の改正で目指すべき像 >

1. 尊厳と自立を支えるケアを実践する
2. 専門職として自律的に介護過程の展開ができる
3. 身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる
4. 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる
5. QOL(生活の質)の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる
6. 地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる
7. 関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する
8. 本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる
9. 制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる
10. 介護職の中で中核的な役割を担う

+
高い倫理性の保持

2

研究の背景

今後、より介護福祉士に求められる役割

1. チームマネジメント能力を養うための教育内容の拡充
2. 対象者の生活を地域で支えられるための実践力の向上
3. 介護過程の実践力の向上
4. 認知症ケアの実践力の向上
5. 介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上

(出典:日本介護福祉士会より)

3

研究の背景

【介護実習の教育内容】

教育に含むべき事項	留意点	想定される教育内容の例
介護過程の実践的展開	介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ内容とする。	1) 実習を通じた介護過程の展開
多職種協働の実践	多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ内容とする。	1) 実習を通じた多職種連携の実践
地域における生活支援の実践	対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ内容とする。	1) 対象者の生活と地域との関わり 2) 地域拠点としての施設・事業所の役割

出典:日本介護福祉士会「介護実習指導の内容とポイント」

4

研究の背景

<介護総合演習>

教育内容のねらい: 介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする

教育に含むべき事項	留意点	想定される教育内容の例
①知識と技術の統合	<ul style="list-style-type: none"> 実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながる内容とする。 実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし専門職としての態度を養う内容とする。 	1) 介護総合演習の意義、目的 <ul style="list-style-type: none"> 各領域で学んだ知識と技術の統合 介護観の形成 介護実習の枠組みと全体像の理解(実習施設・事業など I・II の区分の理解)
		2) 実習に関する基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> 介護実習の意義と目的 実習施設・事業などの理解 実習施設・事業所がある地域の理解、社会資源との関わり 実習の準備 実習目標の設定、実習計画の作成 実習記録の意義と目的、方法、留意点 個人情報の取り扱い 健康管理 実習におけるスーパービジョン
		3) 実習の振り返り <ul style="list-style-type: none"> 自己評価と客観的評価 実習のまとめ、実習報告会などを通じた学びの共有 深化 自己の課題と展望
②介護実践の科学的探究	質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解する内容とする。	1) 介護実践の研究 <ul style="list-style-type: none"> 研究の意義と目的 研究方法の理解(質的研究、量的研究、事例研究など) 倫理的配慮 研究内容の発表

出典:「介護福祉士養成課程 新カリキュラム 教育方法の手引き」

研究の目的

介護福祉士養成課程のカリキュラム改正により、本専攻では令和4年度から、卒業年次全員が個別の研究テーマを設定して介護実践研究に取り組んでおり、実習と連動して探究した介護実践を「介護実践研究報告書」にまとめている。

本報告では、令和4年度から令和6年度まで3年間の介護実践研究報告書の分析を通して、介護福祉を学ぶ学生らがどのような問題意識を持ち、実習を通して何をテーマに研究に取り組んだかその傾向を明らかにするとともに、今後介護実践研究の展開の際の実習施設との連携に向けての課題について考察することを目的とする。

研究の方法

静岡県立大学短期大学部社会福祉学科介護福祉専攻の卒業年次生が令和4年度～令和6年度に取り組んだ介護実践研究58件について

①介護実践研究テーマの傾向を把握する

- 介護実践研究報告書の研究タイトルと、研究目的の内容を切り取り、分析用エクセルに整理する
- 重要な単語や複合語は1語として抽出できるように「強制抽出」語を作成し、前処理を行う
- KH Coderを用いてテキストマイニング分析を行う
 - 品詞別に単語を抽出した上で、出現頻度が高い語を抽出する
 - 一緒に出現する語の結びを探るため、共起ネットワーク分析を行う
 - 年度ごとに出現する語の特徴を探るため、特徴語分析を行う
 - 年度間の類似度や関連の深さを検証するため、対応分析を行う

②介護実践研究実施の現状を概観する

- 研究方法、研究期間などを分類する

結果と考察

<抽出語の出現割合>
(R4-R5-R6年度順)

- ・「高齢者・利用者」
63%-78%-56%
- ・「認知症」
29%-50%-13%
- ・「レクリエーション」
29%-17%-13%
- ・「コミュニケーション」
21%-22%-13%

<抽出語数の平均>
(研究1件当たり)

- ・3.6語-3.8語-4.8語

<頻度1語の割合>

- ・68%-69%-84%
- 重複語が少ない

*研究タイトルの抽出語リスト

#	R4年度(24件)		R5年度(18件)		R6年度(16件)	
	抽出語	頻度	抽出語	頻度	抽出語	頻度
1	高齢者	10	認知症	9	高齢者	5
2	レクリエーション	7	高齢者	7	効果	4
3	認知症	7	利用者	7	利用者	4
4	研究	6	効果	5	支援	3
5	コミュニケーション	5	コミュニケーション	4	コミュニケーション	2
6	活動	5	支援	4	レクリエーション	2
7	利用者	5	レクリエーション	3	関わり	2
8	介助	4	介助	3	軽減	2
9	効果	3	困難	3	向ける	2
10	向ける	3	対応	3	全盲	2
11	支援	3	介護	2	認知症	2
12	障害者	3	介護職員	2	不安	2
13	心理	3	活動	2	24時間シート	1
14	与える	3	環境	2	ADL	1
15	アプローチ	2	関わり	2	BI	1
16	ケア	2	及ぼす	2	BPSD	1
17	乗乗	2	考察	2	ICT	1
18	影響	2	施設	2	ケア	1
19	介護	2	食事	2	リハビリテーション	1
20	活用	2	負担	2	リフト	1

結果と考察

<実施方法>

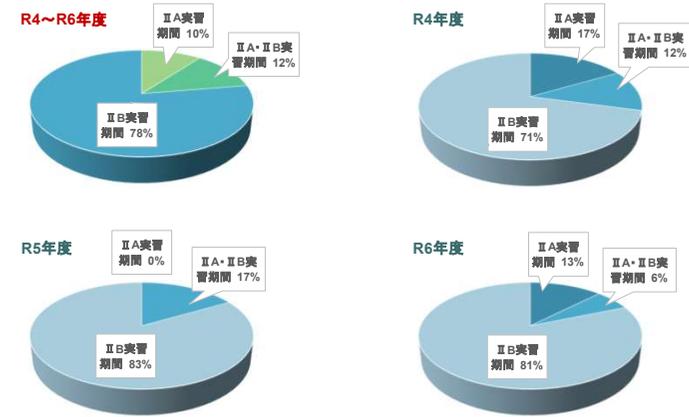
実習中の実践事例研究が79%、職員へのインタビュー調査の研究が10%、記録を含めた文献調査が9%

区分	R4年度	R5年度	R6年度	R4~R6年度	割合
実践事例研究	19	13	13	45	79%
実践事例研究 & 職員にインタビュー調査	0	1	0	1	
職員にインタビュー調査	0	2	2	4	10%
職員にインタビュー調査 & 実習記録分析	1	0	0	1	9%
実習記録分析	1	0	0	1	
文献研究	1	0	0	1	9%
文献研究 & 施設事例研究	0	2	0	2	
施設事例研究	2	0	1	3	
計	24件	18件	16件	58件	

結果と考察

<実施時期>

2年次後期の実習期間が78%、2年次前期の実習期間からが22%



今後の課題

・介護実践研究に取り組み、年数を重ねていく中で、年度をこえて研究の知見が後輩に共有され、問題関心の領域が広がり、多様な研究テーマが取り上げられている

・介護実践に必要な知識と技術を統合し、実習の教育効果を高めるとともに、事例検討を通して介護実践を科学的に探究し、介護福祉士に求められる役割を担える様々な実践力の向上につなげていく

・実習中における実践事例研究が主であるため、施設との連携は不可欠であり、利用者や職員への倫理的配慮とともに研究テーマの多様化に伴い、事例を扱う際の細かな連携の検討が求められる

ご清聴
ありがとうございました

